

取扱説明書

品名：ケーブルジョイント

【ご使用の前に】 ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使い下さい。

【販売店の皆様へ】 この取扱説明書には安全上に関する事項が記載されていますので製品の販売に際しましては必ず添付して頂きますようお願い致します。

警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】 絵表示には下記の種類のものがあります。



△記号は注意(危険・警告を含む)が必要な内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は特定しない一般的な禁止)が描かれています。



●記号は必ず守っていただきたい内容を示すものです。図の中には具体的な指示内容(左図の場合は特定しない一般的な指示)が描かれています。

JIS規格C9300-12について

2008年に、ケーブルジョイントJIS規格C9300-12が制定されました。当社でもケーブルジョイントCシリーズを開発し、ゴムカバーに特殊耐熱性合成ゴムを使用した耐熱性ゴムカバーはゴム耐熱性試験規格であるUL規格の最も厳しいV0に合格しました。耐劣化性能に関しましては、オゾン劣化試験で168時間でも劣化なしの評価があります。これによって、従来ケーブルジョイントより5倍以上の耐熱・劣化性能を持ったケーブルジョイントになりました。国内・世界初となるJISマーク表示認証ケーブルジョイントCシリーズのご使用をお勧め致します。

◇本説明書にはケーブルジョイント全般についての内容を記載しています。

ケーブルジョイントへの電線の接続

電線の接続方式には、ネジ止式・圧着式・半田式の3種類がありますので、ご購入の製品の接続方法をご確認の上、下記の説明事項をお読み下さい。又、下記内容は主にソケット用の説明となっておりますが、プラグ用も同様の方法で接続して下さい。尚、本文中の○内の番号は部品を表しています。

◇ ⑩ソケット金具より⑨ソケットゴムカバーをはずしておいて下さい。 [各方式共通]	
◇ ⑨ソケットゴムカバーの方向をご確認の上⑨ソケットゴムカバーの中に電線を通した後、電線の被覆を⑩ソケット金具に挿入する部分だけ取り除いておいて下さい。 [各方式共通]	
◇ 付属の⑭銅管を電線の被覆を取り除いた部分にかぶせた後⑮金具後部に挿入して下さい。 [ネジ止式]	
◇ ⑮金具後部の銅管部分に電線の被覆を取り除いた部分に挿入して下さい。 [圧着式]	
◇ ⑮金具を垂直に固定した後⑮金具後部を加熱して半田を電線挿入穴に溶かし込んで下さい。 [半田式]	
◇ 付属の⑯六角レンチで⑰電線締付ネジを可能な限り一杯に締め付けて下さい。 [ネジ止式]	
◇ 圧着工具に⑮金具後部の銅管部分をセットして圧着して下さい。 [圧着式]	
◇ 電線を⑮金具後部の電線挿入穴に差し込んだ後水等で⑮金具を冷却して下さい。 [半田式]	
◇ ⑨ソケットゴムカバーを⑩ソケット金具に被せて下さい。 [各方式共通]	

△注意 [電線接続に際して]

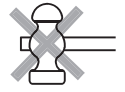
【付属品以外は使用しないで下さい】

⑩電線締付ネジは弊社付属品以外は絶対に使用しないで下さい。ネジピッチのあわないものを使用すると接続不良の原因となり、電線が①本体金具より抜けて感電及び溶接機の損傷等の危険があります。



【ハンマーで叩かないで下さい】

圧着式の電線接続に際して銅管をハンマー等で叩いて圧着するのは接続不良の原因となり溶接作業中に電線が①本体金具より抜けて感電及び溶接機の損傷等の危険がありますので、必ず圧着工具をお使い下さい。



【加熱のし過ぎに注意して下さい】

半田式の電線接続に際して、バーナー等で①本体金具を加熱する場合、加熱し過ぎて①本体金具を変形させないようにご注意ください。



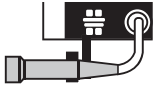
【部品の他の用途への転用はしないで下さい】

当社製品の付属部品や別売部品は当社製品用に設計されたものも御座いますので、他の用途への転用はしないで下さい。



【電源側にはソケットを使用して下さい】

ケーブルジョイントへの電線の接続に際しては安全のため電源側にはソケットを使用して下さい。



【J・NK・CSタイプケーブルジョイントは二次側専用です】

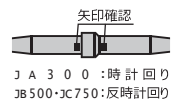
J・NK・CSタイプケーブルジョイントは電気溶接機二次側専用使用となっています。



△注意 [ご使用に際して]

【ねじ込み方向をよく確認して下さい】

ケーブルジョイントのプラグとソケットを接続する場合ねじ込み方向をよく確認してねじ込んでください。ねじ込み方向を間違えると接触不良や不意に外れたりすることにより、機械を損傷したり感電の恐れがあり大変危険です。



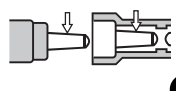
【ゴムカバーが劣化した場合は取り替えて下さい】

ゴムカバーは経年変化により傷・割れ等の劣化が生じることがありますので、このような場合は販売店より交換用ゴムカバーをお求めのうえ取り替えて下さい。



【テーパー部分の傷や汚れに注意】

プラグ金具やソケット金具の接続テーパー部分に傷がついたり汚れたりした場合、通電性能が大幅に低下して発熱したりする恐れがありますので接続テーパー部分は常にきれいに保つように心がけて下さい。



【耐熱電線をご使用の場合は】

耐熱電線をご使用の場合は、電線が過度に発熱しその熱がケーブルジョイントに伝わってゴムカバーを損傷させることがありますので、このような場合は耐熱性ゴムカバーCシリーズのご使用をお勧め致します。詳しくは販売店にお問い合わせ下さい。



【水に浸けないようにして下さい】

J・CSタイプのケーブルジョイントは、防水設計にはなっていないので、水には絶対浸けないようにして下さい。誤って水に浸かってしまった場合は感電の危険がありますので、よく乾燥させてから使用して下さい。



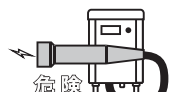
【脱着は電源を切ってから行って下さい】

ケーブルジョイントの脱着は、電源を切ってから行って下さい。通電したままでの脱着は感電の恐れがあり大変危険ですので、絶対にお止め下さい。



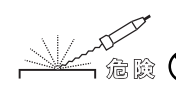
【プラグを抜いた状態では通電しないで下さい】

ソケットからプラグを抜いた状態では、絶対に通電はしないで下さい。ショート又は感電の恐れがあり大変危険です。



【溶接棒を使って通電の確認はしないで下さい】

ケーブルジョイントのソケットに溶接棒を差し込んで母材等に短絡して通電の有無を確認するのは感電の恐れがあり、大変危険ですので絶対にお止め下さい。



【使用率の高い場合】

ケーブルジョイントの焼けや劣化が酷い場合は、使用率オーバーの可能性があるので、ワンランク上の大きいケーブルジョイントか、耐熱性のゴムカバーCシリーズのご使用をお勧め致します。

